

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail kohitsuji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2011年10月20日

第 342 号

関係論を深める

小羊学園の将来像

関係論に立つ福祉実践⑥

理事長 稲松 義人

幹部職員の会議で、数年先まで見据えた小羊学園の中長期計画を示したいという意見が出された。現時点で具体的な課題となっていくことへの取り組みの見通しではなく、その後の事業展開の目安となる目標を示したいということであった。現在具体的な課題として挙がっているのは、①支援センターわかぎの改築、②三方原地区の老朽化したケアホームの建て替え、③浜松南地区でのケアホームの設置、④三方原地区の日中活動支援事業の整理、⑤つばさ静岡の通所部門の拡大である。

そのあとの事業展開として、①浜松地区の生活介護事業所の不足に対する対応、②在宅の人たちのニーズに 대응するケアホームの設置、③障がいのある子どもの放課後支援の拡充、④障がいのある人たちの居宅生活を支えるホームヘルプ事業などが考えられる。これらのことに、小羊学園がどのように取り組むかという見通しをもちたいという気もちは理解できる。

しかし、これからは地域に必要とされる福祉事業の将来計画については行

政が中心となってまとめられるべきではないかと思う。そのうえでそれに沿って小羊学園がどのような役割を担おうとしているのかを考えるのが順序ではないだろうか。

今後の事業展開を考えるときに、地域社会のニーズに必要とされる事業を量的に拡大することも確かに求められているが、量的な必要に必要なのは、行政計画の中で考えて欲しい。むしろ民間福祉事業者としては、質的なニーズを捉える心を大切にしたい。質的な充実、障がいのある人たちも含めて市民一人ひとりのQOLの充実というニーズだと思ふ。

例えば、三方原スクエアの場合、旧小羊学園児童寮・青年寮の移転新築だったので、明らかに量的な拡大を目指したのではない。しかし、単に老朽化した建物を建て替えただけでもない。児童寮・青年寮での実践から見えていた入所する人たちの生活を改善したいという取り組みがあった。しかしそれによって新しい課題が見えてきている。かつては同じ場所に配属された複数のスタッフが一緒に仕事をしながらお互いに支え合ってきたが、利用者の生活を小さい単位で支援するためにスタッフが各ユニットに分かれることになった。それによりスタッフの多くが場を共有できなないこと、不安を感じるようになった。また、支援にあたって一人では困難を感じるようなケースに対応すると

きに、チーム力で乗り切ることが難しくなっているのだと思われる。

しかし、だからと言って、施設では入居する人に我慢してもらい大きな単位で生活してもらう方がよいというところではない。生活する人たちにとって少人数の方がよい生活ができるのなら、それを維持しつつ、スタッフの不安が解消されるような取り組みをしていかなければならない。そのための具体的な取り組みをしていくことも、事業展開と言えらるのではないだろうか。

人は誰でも人間関係の中で支えられている。利用者がそうであるようにスタッフもまた同じである。利用者も本当は介護してくれれば誰でもいいと思っているわけではないだろう。スタッフが、利用者はあくまでも利用者であって、支援の対象としてしか見えないとしたら、一人で仕事をするときに、一人だと感じるのではないかと思う。確かに実際に仕事をするのは一人だが、利用者としてされる人たちもその場に生きている。あるいはその場は一人でも、多くの人とのつながりの中で支援をしていると感じられるならば、場面の捉え方が変わってこないだろうか。

「関係論」にたつ福祉実践は、利用者も含め、人と人が出会い、分かち合うところに喜びが感じられる実践だと思っている。小羊学園では、それを推進するためのこれからの取り組みについての計画をもちたいと願っている。

小羊ふれあい運動会

走り・笑い・応援した、秋の思い出



浜松地区の通所事業所の交流を目的に、今年で3回目を迎えたふれあい運動会が10月7日（金）浜北グリーンアリーナで行なわれました。みんなの頑張っている様子を報告します。

「げんきにたのしく」を

合言葉にして

小羊デイケアホーム 稲松 佳通代

さわやかな秋晴れの下、まさにスポーツ日和となった10月7日、賑やかな運動会が開催されました。三方原スクエア・オリーブの樹・マルカート・小羊デイケアホームに新しく支援センターわかぎ・ぱびるすが加わって、利用者さんたちと職員、保護者の方たちを合わせると、25名ほどの参加になりました。



最初の種目は男子30M走です。各施設順番で11名ずつの選手がスタートか

**全員が
完走する事が出来た徒競走**
三方原スクエア 山田 紗也華

た。小羊デイケアホームは今年当番施設ということ、いつもにも増して力が入り、ふれあい運動会の横断幕を作ろう！と準備のうちから皆で大盛り上がりでした。また9月のお楽しみ外出の時、浜北森林公園でパン食い競争やリレーの練習をしたり、毎日の散歩の途中、公園で「よいいドン」のタイミングで走る練習を重ねたりして、余念なく運動会の日を迎えました。開会式での選手宣誓の大役を任されたヒロシさんとヨウコさんが、毎日「センセイ！」と手を高く掲げ、「げんきにたのしくがんばります」と暗唱していた姿は微笑ましいものでした。その甲斐あって開会式での選手宣誓はバッチリでしたね。



らゴールまで一直線に走り抜けました。男性利用者の競技という事もあり、エネルギーでスピード感も溢れ、完走後の清々しい皆さんの笑顔がとても印象的でした。続いている種目は、女子30M走です。三方原スクエアのエツコさんは、職員の手拍子に合わせながら1歩1歩ゴールを目指し、周りの皆さんの声援もあり、ゴールすることが出来ていました。「頑張ったね！偉かったね！すごい！」との歓声に、御満悦な表情のエツコさんでした。続いている種目は、「車椅子・歩行器等の徒競走、15M走」です。この競技には、ぱびるすの子ども達も一緒に入って行われました。年齢も個性も様々な選手が、歩行器や車椅子を自分の力で動かし、一生懸命ゴールを目指しました。ぱびるすの子ども達も小さいながらも力強い走りを見せてくれました。思わず他の職員から「可愛い〜！頑張ってる〜！」と歓声が上がる場面も見られました。そして、午前最後の種目は、なんと

いっても「パン食い競争」です。選手のみなさんにとって一番楽しみにしている種目です。逸る気持ちを抑えてスタートを待ち、好みのパンやクッキー、プリンに向かって一目散に走り、参加者全員が笑顔に包まれた競技になりました。御家族や遊びに来て下さった「みんなの家」の方々、大勢の方に参加して頂き和気藹々とした雰囲気での前の競技を終了することが出来ました。

お昼の魅力的な時間を…
オリーブの樹 大石 真理子

楽しいお弁当タイムの後は、毎年恒例となっている魅力的な倶楽部（エキゾチッククラブ）の歌とダンスの時間です。NPO法人魅力的な倶楽部は「差別、偏見のない誰もが普通に暮らせる、心のユニバーサルデザインをめざした街づくり」を夢に掲げて、日々当事者との交流活動を展開している素敵な倶楽部です。

この日は、アニメソングあり、お祭りソングあり；始まると同時に皆さんついつい体が揺れだし、気がつくとき会場はひとつになっていました。

高い舞台はなし。歌う人と聞く人と言う垣根もなく、一緒に前に出て踊る人、応援席で横になってのんびり聞いている人、皆さんそれぞれのスタイルで魅惑的なひと時を過ごしました。

種目 玉転がしリレー
 午後の競技は得点競技の為、どのチームも1位を取ろうと選抜メンバーでやる気十分でした。スタートの合図を今か今かと待ち構え、スタートの合図と共に大玉を押し歩いて歩く人、軽快に転がして走る人と第2、第3走者と続いて行くにしたがって、徐々にペースに差が生まれて行きました。中でも今回、初参加のばびるすの子どもたちの元気いっぱい走りながら他のチームを引き離して行きました。それに負けじとスクエアもマルカートも健闘しました。ど

今年の優勝は何処だ！
 支援センターわかぎ 黒田 大空



のチームにも旗を振り、太鼓を鳴らしての熱い声援がおくられていました。優勝は若さ溢れ、元気いっぱいのオリブの樹チームでした。
 いよいよ最後の種目の男女混合リレーです。この競技も得点競技なのでどの施設も気合いを入れたメンバー編成でした。この種目では職員も参加しました。この中で輝いたのは、こちらも初参加のわかぎでした。優勝には絡みませんでした。記録よりも記憶に残る走りをみせてくれました。優勝は安定感のある走りを見せた、小羊デイケアホームでした。
 午後の部を終え、どのチームも全力を出し尽くし疲れていましたが、晴れ晴れしい表情でした。さて、総合優勝チームの行方は？

ふれあい運動会 実行委員に聞きました！

- 実行委員長 小羊デイケアホーム 横井一陽さん
- 今年のふれあい運動会で意識したことは？
今年、初めて参加する施設の利用者が元気に楽しく！
 - 運動会の開催中に感動したことは？
「ばびるす」の子供達のととても嬉しそうな笑顔。
 - 利用者が楽しめるように心掛けたことは？
パン食、大玉転がしに特に力をいれました。
 - 次年度への反省を聞かせてください
利用者さんの食事場所をもう少し考えなくてはいけないと思いました。



後列左から2番目が横井実行委員長

優勝はどの施設に？
 皆、最後まで頑張りました！
 マルカート 小澤 京子

- 成績発表
- 優勝 小羊デイケアホーム
 - 第2位 オリブの樹
 - 第3位 三方原スクエア
 - 第4位 マルカート
 - 第5位 支援センターわかぎ
- デイケアホームとオリブの樹が同一優勝で毎年恒例のじゃんけんを行い、見事デイケアホームが優勝しました。
 2回目の優勝という事もあり、皆歓声を上げ全身で喜びを表現していました。顔を見合わせたり、口々に喜びの言葉を交わしたり、嬉しそうな表情から、



楽しむ事ができた様子が伝わってきました。
 今年から、出場施設が増えますます活気を見せていた運動会。どの施設も前々から準備や練習を重ね頑張る事ができました。優勝した施設もそうでない施設も力を合わせて一つになり行えた事が、また皆との絆を深めたのではないかと思います。

宝石箱展が開催されます

三方原スクエア、和合せいれいの里、聖隷厚生園、第2アドナイ館の利用者の作品です。三方原スクエアで行っている絵画教室（講師：中道芳美先生）の作品が中心で、30点ほど展示されます。まるで絵がおしゃべりをしている、そんな気持ちにさせられます。決して上手な絵ではありません。でも、いい絵なのです。ぜひご来場ください。

開催期間：2011年11月16日(水)～11月27日(日)
 時間：10：00～17：00
 会場：クリエート浜松 ギャラリー35
 主催：(福)小羊学園三方原スクエア
 (福)聖隷福祉事業団聖隷厚生園
 (福)十字の園
 (財)浜松市文化振興財団
 後援：浜松美術協会、聖隷クリストファー大学、静岡新聞社、静岡放送、中日新聞東海支社



昨年行なわれたギャラリーの風景

わかぎ秋祭り

日 時：11月13日(日)
 10時～14時
 ところ：支援センターわかぎ
 浜松市浜北区平口5042
 イベント：フラダンス・ピアノ独演会
 アコースティックライブ
 模擬店・喫茶・フットケア
 フリーマーケット・野点
 さをり体験・作品販売 等
 駐 車 場：施設前駐車場および姥ヶ谷公民館をご利用下さい



今年の秋祭りは東北を元気にしよう！と「東北B級うまいもん店」を開催。福島なみえ焼そば・せんべい汁・芋煮コロッケ・喜多方ラーメン・東北がんばろうどら焼などがラインナップ！食材は現地から調達。売上げは被災した障害者支援施設に全額寄付します。うまいもんを食べて、東北を元気付けましょう！



南地区ケアホーム計画進む

兼ねてから浜松南地区に居住系事業所が欲しいと、保護者や地域の要望を受けて検討していたケアホーム建設計画が進み始めています。3月に浜松市へ概要調書を提出し、順調に進めば、平成25年4月に開設する予定です。
 建設地は、南区西島町で隣接には五島公民館や南の星小学校があり、様々な地域の人たちと交流機会が持てることを期待しています。9月にプロジェクトチームが立ち上がり、定員は6名＋短期入所2名を想定しハード・ソフト両面を協議し実現に向かっていきます。

編集後記

10月初旬に東日本被災地支援第2陣として3泊4日で宮城県南三陸町へボランティアに出掛けた。私も含め法人職員4名で現地に向かい、ボランティアセンターで受付を済ませ、瓦礫撤去作業をさせてもらった。震災から7ヶ月が経過してもなお瓦礫が積まれたままの場所や、いまだ手付かずの状態の所もあり復興までの道のりは遠いと感じた。津波で2名の方が犠牲になり、施設が全壊した障害者通所施設の存在を知り、福祉専門職の継続的な支援の必要性も感じた。法人としてできることを再確認したい。
 朝夕も冷え、これから本格的な寒さがきます。どうぞお体を大切に。(F)

小羊学園を支える会

2011年度寄付金報告
 9月受付分 99,000円(14件)
 累 計 2,699,650円(136件)
 小羊学園への寄付金振込み先
 郵便振替口座 00800-8-107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園
 ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園
 ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。
 小羊学園を支える会事務局(鈴木)
 三方原スクエア内 ☎053-414-1833